

報道関係各位



当金庫の2021年度決算の概要等について

拝啓 時下ますますご清栄のことお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

標記の件につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。

敬 具

記

1. 2021年度（第78期）決算の概要

(1) 収益等の状況

～増収増益 経常収益は6期ぶりの増収、当期純利益は2期連続の増益～

(単位：百万円、%、ポイント)

	2020年度	2021年度	前期比増減
経常収益	4,149	4,316	166
経常費用	3,838	3,557	△281
経常利益	311	759	448
当期純利益	294	807	513
自己資本比率	9.14	9.65	0.51

経常収益は、資金運用収益の増加及び株式等売却益の増加等により、前期比1億66百万円増加（同比+4.02%）の43億16百万円（6期ぶりの増収）となりました。うち、資金運用収益は、貸出金利息が前期比微減となったものの、有価証券運用にかかる収益が増加したことにより、前期比1億54百万円増加（同比+4.56%）しました。

経常費用は、経費の減少及び貸倒引当金繰入額の減少等により、前期比2億81百万円減少（同比△7.32%）の35億57百万円となりました。うち、経費は、人件費にかかる退職給付費用の減少及び物件費の節減に努めたこと等により、対前期比2億18百万円減少（同比△6.83%）しました。また、貸倒引当金繰入額は、繰入超となったものの、繰入額が対前期比68百万円減少（同比△82.23%）しました。

その結果、経常利益は、前期比4億48百万円増加（同比+144.04%）の7億59百万円となりました。

当期純利益は、遊休資産等の処分損、固定資産の減損損失の計上等がありましたが、繰延税金資産の増加により法人税等調整額がマイナスとなったことにより、前期比5億13百万円増加（同比+174.42%）の8億7百万円（2期連続の増益）となりました。

なお、本業の儲けを示す実質業務純益は、前期比3億25百万円増加（同比+118.78%）の5億98百万円となりました。

また、自己資本比率は、分子である自己資本額を着実に蓄積したことから、9.65%となり、前期比0.51ポイント上昇しました。

(参考)

(単位：百万円)

	2020 年度	2021 年度	前期比増減額
コア業務純益	273	625	351
実質業務純益	273	598	325

(2) 主要科目残高の状況

預 金	3,814 億円	(前期比 14 億円増加)
貸出金	1,489 億円	(前期比 17 億円減少)

預金は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、消費が抑制されたことから、主に個人の流動性預金残高が増加した結果、期末残高は 3,814 億円（前期比+0.38%）となりました。

貸出金は、昨年度の事業先へのコロナ対応融資の反動や、コロナ禍による先行き不安、及び原材料高騰に伴って設備投資需要が低調となったこと等から、期末残高は 1,489 億円（前期比△1.14%）となりました。

(3) 金融再生法開示債権の状況

不良債権総額	127 億円	(前期比 2 億円増加)
不良債権比率	8.55%	(前期比 0.25 ポイント上昇)

金融再生法における不良債権額については、前期比 2 億円増加（同比+1.63%）の 127 億円となりました。また、不良債権比率（金融再生法ベース）は、前期比 0.25 ポイント上昇の 8.55%となりました。

(4) 2022 年度（第 79 期）における収益見込み

経常収益	41 億円	(前期比 2 億円減少)
当期純利益	5 億円	(前期比 3 億円減少)

2022 年度につきましては、他金融機関との競合等により金利水準が低位な環境が続き、貸出金利回が低下することや、日本銀行による金融緩和政策やウクライナ情勢等、不透明な市場環境から、収益環境はさらに厳しさを増すことが見込まれ、経常収益は 41 億円、当期純利益は 5 億円と減収減益を見込んでいます。

以 上

[お問合せ先]：企画・運用部（松田、中村、泉） TEL：0848-62-7143